

令和4年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 藤田 哲彦

3月に入り、ライフパーク前の河津桜も咲き始めました。先日、桜の木の前で足を止めると、たくさんのメジロが遊びに来ていました。誰が教えたわけではないのに桜の木もメジロも冬の終わりと春の訪れを知っていること、そして、こちらが気付かなくても絶え間なく動いている自然の営みに感心いたしました。

教育センターでは、「教員研修」「適応指導」「教育相談」「教育情報の収集と提供」の四つの機能を有しています。今年度もこの四つの機能を中心に組み立ててまいりました。それぞれの機能について振り返っていききたいと思います。

まず、「教員研修」についてです。コロナ禍も気が付けば3年が過ぎましたが、今年度は、初任者研修の一部を除き、ほとんどの研修を対面で実施することができました。長い間、オンラインでの研修が続いてきたので、このように、受講者の皆様と顔を合わせての研修ができることの素晴らしさを改めて感じた次第です。

年間を通して行われる初任者研修、中堅教諭資質向上研修といった法定研修でも、実際に顔を合わせての研修となりました。研修の中で互いを感じながら講義を受けたり一緒に協議をしたりするといった、受講者の切磋琢磨する姿を見ることができ頼もしかったです。また、休み時間には同期や同世代の先生方が楽しそうに話をしたり、学校の情報交換をしたり、中には教育について語り合ったりする姿も見られました。互いの絆も深まり、少しずつ元の研修の姿に戻りつつあることを大変うれしく思います。

一方、研修を巡っては全国的に大きな変革がありました。令和4年7月に、これまでの教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部が改正され、教員免許更新制が発展的に解消されることになりました。また、令和5年4月1日より、教員の研修履歴を残し、その情報を当初面談、最終面談に生かしていくこととなります。これまでも、岡山県教員等育成指標（以下「育成指標」）に基づいて、研修を進めてまいりましたが、今後も育成指標を踏まえ、一人一人の先生方にとって、分かりやすくキャリアステージに合った研修を提供できるよう取り組んでいこうと思います。

「適応指導」では、倉敷ふれあい教室に通室してくる児童生徒が、活動を通して「できた」と感じることができるよう、体験を大切にしています。特に、今年度は、7月に新しくリニューアルオープンした倉敷市自然の家で自然体験学習を実施しました。また、9月には、ふれあいスポーツ大会も開催しました。これらの体験活動は、3年ぶりの開催となっています。「自然体験学習やふれあいスポーツ大会が楽しかった」という多くの子どもたちの声も聞こえて励みになりました。また、ふれあい文化祭でも準備を通して子どもたちの中に絆が生まれてきて集団が育っていく姿を見ることができました。やはり体験を通して「子どもたちが集団の中で学ぶということはとても大切なことだ」と、子どもたちから改めて教えてもらった思いです。一年の終わりの卒業を祝う式では、子どもたちから「ふれあい教室の活動がどれも楽しかった」「ふれあい教室で新しい友達ができてうれしかった」というような感想を聞くことができ、私もうれしかったです。保護者の方からも「家での表情が明るくなった」といった大変ありがたいお声も頂戴しました。このようなお声を励みに、職員一同これからもふれあい教室の活動をより充実させていこうと思いました。

「教育相談」では、必要に応じて関係機関につなぐことを意識し、教育指導員や臨床心理士による相談を行ってきました。相談を担当する教育指導員は相談される方の気持ちに寄り添った相談となることを心掛けてきました。また、「とらいあんぐる」「かけはし」を通して保護者支援の充実を目指しました。

「教育情報の収集と提供」では、研究集録、教育雑誌、書籍、教科書を展示し、今後も、これまでの教育とこれからの教育をつなぐ役割を果たしたいと思っております。

最後になりましたが、1年間、教育センターの諸事業に温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。そして、今後とも変わらぬ御理解と御支援をどうぞよろしくお願いいたします。



☆ 令和4年度 全研修講座が終了しました ☆

中堅教諭資質向上研修 最終回

「特定課題研究発表会」

特定課題研究発表会では、中堅研受講者がそれぞれのテーマで1年間研究実践を重ねた成果を発表しました。発表内容は、教科指導、学級経営、特別支援教育、生徒指導、ICT活用等、多岐にわたっていますが、どの発表にも「子どもたちにこんな力を付けたい」という熱い思いがありました。異校種の取組や他教科の実践を知ることにも新たな学びとなり、中堅研の仲間がそれぞれの分野で活躍する姿は大きな刺激となったようです。

また、3年目研修の受講者は、自らの課題や研究に資するようにと発表会に参加し、熱心に質問をしていました。校長先生や来年度中堅研を受講予定の先生も聴講しています。

中堅研受講者は、この研修をステップアップの機会とし、今後より一層の自己研さんと、ミドルリーダーとしての飛躍が期待されているところです。

【参加された校長先生から】

課題研究に取り組み始めた先生方の、資質向上に努めようとする姿勢に感心しました。スキルアップをめざし、新しい分野に挑戦しようとする態度に頼もしさを感じました。今回の課題研究を単発に終わらせることなく、探究心を持続し、さらに向上していったらいいと思います。



【中堅研受講者のアンケートから】

研究テーマを考えるときに、本校の課題や子どもの実態を改めて深く意識しました。強みや弱みを見つけて、それらをどう生かして改善していくかを考えるよいきっかけとなりました。他の先生方の発表を聞いて、課題にアプローチする方法はたくさんあると分かりました。子どもの学びを深める指導を今後めざしていきたいと思います。

3年目研修 最終回

実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。

【受講者のアンケートから】

- 同期の先生の話の聞いたり、取組を教えてもらったりすることで、新たな発見が多かったです。教科指導や学級経営について、自分自身の取組を振り返るよい機会にもなりました。自分の強みを生かして、これからも目の前にいる児童と向き合っていきたいです。
- 学級経営も教科指導も、児童の声を大切にして主体的に活動できるようにすることが大切だと感じました。同期の先生との交流で、新たな視点をもらうことができました。
- 協議を通して感じたことは、目指す生徒像に近付けるためのしかけづくりが大切であるということです。これからも、学び続ける教師でありたいと思いました。



令和4年度受講者数 (すべて延べ人数)

合計 4,876 名

1 初任者研修(新規採用学校栄養職員を含む)	1,317名	14 幼児教育研修	350名
2 2年目研修	256名	15 学校事務職員研修会	106名
3 3年目研修	270名	16 学校事務職員スキルアップ研修	76名
4 中堅教諭資質向上研修	913名	17 新規採用学校栄養職員研修	1名
5 16年目研修	118名	18 教科教育基礎研修	135名
6 新任教務主任研修	85名	19 特別支援教育研修	130名
7 特別支援教育新任担当教員研修	203名	20 授業ユニバーサルデザイン(UD)研修	94名
8 新任特別支援教育コーディネーター研修	185名	21 特別支援学級スキルアップ研修	62名
9 通級指導教室担当教員研修	61名	22 発達検査研修【WISC-IV検査】	29名
10 生活支援員研修	53名	23 学校カウンセリング研修	45名
11 新任講師研修	59名	24 子どもの発達を考える会	52名
12 2年目・3年目講師研修	102名	25 生徒指導研修	112名
13 幼稚園助教諭研修	25名	26 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修	37名

初任者研修最終回 記念講演

「教師に求めたい『教育の心』～夢育の推進～」

環太平洋大学 次世代教育学部教育経営学科
特任教授 千葉 照久



初任者研修最終回では、『教育の心』について考え、倉敷市で教員人生を歩んでいくことへの意欲を高める」ことを目的に、記念講演を開催しました。

講師の千葉先生は、岡山県公立小学校教諭、岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事、倉敷市立小学校長を歴任されました。令和4年度からは岡山県教育委員会より委嘱され、「夢育アドバイザー」に就任。子どもたちの「学びの原動力」である「夢」を育み、それに挑戦して

いく経験を通して、意欲や自信などの「自分を高める力」を伸ばす「夢育」について御講演いただきました。

【研修のキーワード】

夢育、自分を高める力、
非認知能力、夢プロジェクト、
夢をかなえるマンダラチャート



<受講者からのアンケート>

- 子どもが夢を見つける場や体験を提供し、非認知能力を伸ばすことができる教師になりたいと思いました。家庭や地域社会と連携し、これからを担う子どもたちが夢を見つけ、夢に向かって挑戦していくことができるよう手助けをしていきたいです。
- 教師は子どもの夢を育む仕事をしていると思います。だからこそ、教師も夢をもち、成長していく必要があると思いました。自分の夢はまだはっきりとしていませんが、夢を模索する姿を子どもに見せながら、一緒に夢を実現していきたいです。
- マンダラチャートの作成を通して夢を考えたとき、とてもわくわくしました。このわくわく感こそが原動力になると感じました。子どもたちにとって、夢をもつことが学びの原動力になるように、夢育を意識した教育をこれから行っていきたいです。
- 非認知能力はすべての教育活動で身に付けることができると思いました。子どもに体験させるだけでなく、体験から何を感じ、どう思ったかを振り返ることが大切であるとわかりました。
- 10年後に目指す姿をマンダラチャートに書くと、日々の経験はすべて自分の成長につながっていくと気付きました。10年先の私の夢を考えることで、今の私が伸ばすべき力や意識すべきことが明確になりました。夢育を通して、子どもも教師も一緒に成長していきたいと思いました。
- これまで取り組んできた信頼関係づくりや、子どもが頑張っている姿を言語化して伝えることなどは、子どもの非認知能力を高めるために必要なことだと学びました。子どもの非認知能力を高める機会をつくり、夢育を進めていきたいです。
- 夢育という言葉は知っていましたが、具体的な理解はできていませんでした。自分の夢、その夢に向かってどんなことをしていくか、こんなにも考えたことがなかったので、とてもよい経験となりました。自分のゴールや目的を明確にすることがどれほど大切であるか改めて感じました。
- 自分を高める力や他者とのつながりなど学校生活の中で育まれることがたくさんあると気が付きました。子どもが夢を見つけ、その夢に向かって学ぶ機会をつくり、応援する教師になりたいと思いました。私自身も将来を見据えて学び続ける教師として頑張っていきます。

☆☆ 玉島教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室玉島教室は、県立玉島商業高校の野球場の南西側にあります。1階には、学習室となかよし活動スペース、2階には、卓球やニュースポーツができる広い体育室があります。外には、ペタンクやキャッチボールなどができる広場や畑もあります。周辺には、良寛さんゆかりの円通寺、玉島港、玉島児童館、玉島図書館、玉島市民交流センターなどがあり、自然と文化施設や教育施設に恵まれた環境の中で、様々な活動に取り組んでいます。

現在教室には、小学生1名と中学生13名の計14名が在籍していて、3名の指導員とアットホームな雰囲気の中で活動しています。

一日の活動としては、みんなと一緒に取り組む「なかよし活動」と一人ひとりの進度に合わせて学習に取り組む「スタディ」の時間があります。「なかよし活動」では、創作活動、スポーツ、栽培活動、科学実験、謎解きゲームなど様々な活動に取り組んでいます。また、毎月1回、図書館を利用したり、ボランティア活動として地域の清掃をしたりしています。苦手なこともみんなで協力することで楽しく取り組むことができます。

今年度は、「目標をもつ」・「自信をもつ」を合言葉に、学習やなかよし活動に取り組んできました。そして、少しでも学校にチャレンジできるようになることを目指しています。



【学習室でのスタディ】



【体育室でのスポーツ】



【広場での活動】



【地域の羽黒神社へ初詣】

おっ!? そうだ!

教育センターの **教科書展示室** に



寄ってみよう!

研究集録を読みたい!

教科書を比べてみたい!

次の物を展示しています。

- ・ 各発行者の教科用図書（教科書）
- ・ 倉敷市内の小、中、特別支援学校の**研究集録**
- ・ 研究団体の**研究集録**（岡山県や他市の教育センター、大学等）
- ・ **教育に関する雑誌・図書**
（「教育時報」「実践みんなの特別支援教育」「学校教育相談」等）
- ・ 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等



教育センター
事務室の隣だよ!



☆ **1か月まで** 貸し出すことができます。（教科用図書、研究集録等は閲覧のみのものもあります。また、貸出しができない期間もあります。）

☆ 開館時間は、**月曜日～土曜日の9時から17時15分**です。（日曜日と祝日は閉館日です。）

☆ 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）はライフパーク倉敷の休館日ですが、教育センターは開館しています。入口の御案内をしますので、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

☆ **本（ほしぼん）**を知っていますか？

特別支援学級等の指導の参考にも!

特別支援学校では、小・中・高等学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「☆本（ほしぼん）」と呼ばれる教科書を作成しています。小学部用には「こくご」「さんすう」「おんがく」、中学部用には「国語」「数学」「音楽」があります。倉敷教育センターで貸出しが可能です!

